

平成 21年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号, 事業の開始年月日, 指定年月日, 法人名, 事業所名, 所在地, サービス種別, 定員等, 自己評価作成日, 評価結果市町村受理日.

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 http://www.rakuraku.or.jp/kaigo/22/detail-tab-ser

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者に笑顔が溢れていけば家族、職員にも笑顔が溢れる。家族に笑顔が溢れていけば利用者、職員にも笑顔が溢れる。職員に笑顔が溢れていけば利用者、家族にも笑顔が溢れる。やすらぎの杜はそんな笑顔のバトンをつないでいけるグループホームでありたいと考えています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 4 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日, 評価機関評価決定日.

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

このホームの特徴
①このホームは横須賀市北部追浜の高台の住宅地浜見台にある。横須賀市北部にはグループホームが少なく、地域の有識者が医療、保健、福祉のコミュニティ造りを目指してNPO法人やすらぎを立ち上げ、このグループホームを設立した。浜見台は国道16号線から少し入った静かな高級住宅地である。NPO法人のメンバー、職員、入居者殆どが地元の方であり、ホームの雰囲気も地元の空気である。ホームは坂の中腹にあるので、1階、2階の玄関がそれぞれ坂道に出られる構造で防災の場合、各々階段を使わず道にでられるので安全である。
②前述の如く、地域のコミュニティ作りからスタートしたホームであるので、NPO法人のメンバー（地元の方）の協力もあり、職員も地元の人が多く、地域に根付いたホームである。医療の関係でも往診医の夏島医院をはじめとする3医院は地元の開業医であり、利用者は入所の際と一緒にホームに往診に来てくれたことから往診医となって頂いた経過があり、現在も診療に協力して頂いている。地元職員の子どもの関係からスタートした学童保育の小学生の独楽や本の読み聞かせなどをしてくれている。地元の社協などの活用で民謡サークル、フラダンス、コーラスなどのボランティアも来てくれている。また、お散歩のコースの地元の人のご好意でお花やみかんなどくれたりしている。餅つき大会では自治会が臼・杵を貸してくれ、近所の人も加わる。近所の福祉タクシーとの相互協力体制が出来ている。その他では特養内にある居宅支援事業所、同じブロックの外の3つのグループホーム、病院の訪問看護事業所、地域の民生委員などとは協力出来る体制となっている。
③介護計画策定についてはアセスメントに沿い、居室担当を中心にしたモニタリングを重点的に行い、カンファレンスで全員で意見を出し合い、課題を抽出して次の介護計画につなげるサイクルを着実に守った良いケアが展開されている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

Table with 3 columns: 評価項目の領域, 自己評価項目, 外部評価項目.

事業所名	やすらぎの杜
ユニット名	1階もみじ

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまにある
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> 4, ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3, たまに
	<input type="radio"/> 4, ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	<input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている
	<input type="radio"/> 3, あまり増えていない
	<input type="radio"/> 4, 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	<input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが
	<input type="radio"/> 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地元出身の有志が立ち上げたホームであり、地域への貢献を第一の目標としている。別に介護理念も作成し、施設内の目に留まりやすい場所に掲示してるため、職員にも理念は浸透している。	今まで横須賀市北部の人口に対して福祉施設の比率が少なかったため、地元出身の有志が立ち上げたホームであり、地域への貢献を第一の目標としている。別に介護理念も作成し、施設内の目に留まりやすい場所に掲示してるため、職員にも理念は浸透している。ホームがあることによる地域への老後の安心感の提供を第一目標として進めている。お蔭で退去された方からこのホームは良いとの口コミが広がり、入居に至るケースも多く、地元の方が8割程度となり、地域の方に親しまれている。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の学童保育施設や民謡の会、老人会との相互交流が持てている。一般的に福祉施設は閉鎖的に思われがちであるが、幸い地元出身の職員が多く、地域交流しやすい環境ができています。	地元職員の子どもの関係から始まった地元の学童保育施設の子供達による独楽や本の読み聞かせ、民謡の会、老人会などとの相互交流が持てている。一般的に福祉施設は閉鎖的に思われがちであるが、幸い地元出身の職員が多く、幅広い年代層の地域交流しやすい環境ができています。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中の福祉施設という役割を果たしたく、老人会の集まりで最近の福祉を取り巻く状況などについて講演させていただくことがある。特に福祉施設は内部が見えにくく、中で何が行われているのかわかりにくいという方が多い為、施設見学を呼びかけている。認知症の方々も援助があれば普通に生活できると言うことを理解していただき、認知症や「老い」に対する恐怖を無くして行けたらと思っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者・利用者家族・外部有識者と話し合うことはホームを成長させてくれる大きな要素であり、介護の質的向上を目指すには欠かせないという姿勢で運営推進会議に臨んでいる。	利用者・利用者家族・外部有識者と話し合うことはホームを成長させてくれる大きな要素であり、介護の質的向上を目指すには欠かせないという姿勢で運営推進会議に臨んでいる。最近では、老人会への介護研修の講師や地元の高齢者の方が来やすいように老人会の見学会の実施など高齢者への対応に力を入れている。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	横須賀市グループホーム連絡協議会の役員を務めた経緯から、市職員と話す機会が増えた。必要に応じて役所で顔を合わせながら相談するようになっている。	横須賀市グループホーム連絡協議会の役員を務めた経緯から、市職員と話す機会が増えた。必要に応じて役所で顔を合わせながら相談するようになっている。横須賀市は福祉行政に熱心であり、上記相談の他に運営推進会議の指導、空室案内など市民への啓蒙などに協力して頂いている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	どういった行為が身体拘束にあたるのか、身体拘束を行うことによってどんな弊害が出るのかを職員に指導し、身体拘束のない介護を徹底している。	どういった行為が身体拘束にあたるのか、身体拘束を行うことによってどんな弊害が出るのかを職員に指導し、身体拘束のない介護を徹底している。施錠については、常に開けておくことを心掛け、外に出たがる人が外に出る気持ちを起こさせない為に、日頃の関わりの中で何をすべきかを考え、議題を引き出しケアに努めている。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	人生の大先輩であるご利用者様に対して尊敬の念を持つことは当然で、虐待という気持ちがみじんも起きてはならないということを職員に徹底している。共に支え生きる関係ができていれば虐待など起こるはずはなく、そういった姿勢を職員全てが持てるよう、肉体的精神的にフォローしていくことが事業所のつとめであると考えている。また講習などで得た知識も職員それぞれに浸透するよう働きかけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前成年後見人を立てていらしたご利用者様がおり、色々と相互協力することができた。その際に制度について後見人の方から詳しく説明していただき知識として身につけることができた。必要性のある方にはお勧めしていこうと思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の条項が多い為、必ず数条毎に質問、確認の時間を取るようにしている。その後最後に全体を通した質問を受け、疑問点が残らないよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	設立4年のまだまだ発展途上の施設である為、家族会や運営推進会議で出た適切な意見についてはどんどん取り入れるようにしている。特に外部評価アンケートの結果は利用者家族の生の声だと考えており、施設をよくする為の貴重な意見として捉えている。	設立4年のまだまだ発展途上の施設である為、家族会や運営推進会議で出た適切な意見についてはどんどん取り入れるようにしている。特に外部評価アンケートの結果は利用者家族の生の声だと考えており、施設をよくする為の貴重な意見として捉えている。水を向ければご家族は話してくれる人もいるし、話しの中で日頃の目守によるご利用者さんへの付加的価値を認識して頂けるよう努めている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	設立してまだ4年ほどの若いホームなので常に改善してゆくという気持ちで施設運営している。職員の意見は月次ミーティングだけでなく、個人面談などでも聞き取りするようにしている。	設立してまだ4年ほどの若いホームなので常に改善してゆくという気持ちで施設運営している。職員の意見は月次ミーティングだけでなく、個人面談などでも聞き取りするようにしている。ミーティング等での意見などは正社員による運営会議とつなげ改善に努めている。職員のアイデアは大切にし、出来ることは取上げることで意欲の向上にもつなげている。施設長が若いので何でも言える自由な雰囲気はこの1つの特長となっている。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	画一的な評価をせず、個々人の普段の努力を各人毎に評価していけるよう努めている。出勤日数の多い職員、夜勤の出来る職員など、それぞれの状況に応じパート職員にも賞与査定を行い、出来るだけモチベーションを高めてもらえるよう働きかけている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一年に一度職員に自己評価表を提出してもらっている。できていることできていないことを自分で再確認してもらい、それを元に個人面談を行いフォローするようにしている。また各研修にも積極的に参加してもらおう働きかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	横須賀市のグループホーム協議会を通じて他事業所との交流が出来ている。また一般職員も他の事業所との交流研修などに参加することで、他のグループホームの様子を知ることが出来る。他のホームの良さを吸収してそれを利用者にも活用していけるよう指導している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に必ず本人面談を行い不安に感じていることなどをヒアリングしている。できるだけ本人が納得して利用できるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	一度の面談で済ますことなく、複数回面談しながら家族の悩み事や要望を出来るだけ汲み取っていけるようなヒアリングを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームと御本人のマッチングということを非常に重要視している。グループホームに入ることが本当に御本人の為になるのか、在宅や特養などのサービスと比較した上で、ご家族とも話し合い、入居を検討していただくように働きかけている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お手伝いのできる方には積極的に声をかけ、炊事、掃除などを職員と共に行っていただくようにしている。職員と利用者が共に作るホームでありたいと思っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	離れて暮らしているからこそ家族の絆を強く持っていただきたく、外食や外出を無理のない程度にさせていただくことを勧めている。通院の際にも通院だけでなく食事やお茶などの時間を持っていただくよう働きかけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	町内会の方やご近所に住まれていた方々も訪問して下さっている。また以前ご利用者が所属していた民謡サークルの催し物に参加させていただいたり良好な関係を保てるよう支援している。	町内会の方やご近所に住まれていた方々も訪問して下さっている。また以前ご利用者が所属していた民謡サークルの催し物に参加させていただいたり良好な関係を保てるよう支援している。特にお正月やお盆など家族行事の印象の強い時には、家族・親戚などとの外出が出来るよう働きかけている。地元からの入居者が多くなったことは地縁を更に深めている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い方同士が隣り合うような席順になるよう配慮し、共有フロアに来ることが楽しくなるよう働きかけている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	主に施設長により退居された方々のお見舞いを行っている。今年度からは職員も同行の上でお見舞いをしようと取り組んでいる。退居後にご家族様が新しい入居希望者をご紹介下さったり、退居後も信頼関係を保っている。		
Ⅲ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入浴が好きな方には毎日入浴介助したり、それぞれのニーズに合わせた介護が出来るよう努めている。また入居時に今までの暮らしの状況を家族から教えていただき、なるべくそれに沿うよう支援している。	入浴が好きな方には毎日入浴介助したり、それぞれのニーズに合わせた介護が出来るよう努めている。また入居時に今までの暮らしの状況を家族から教えていただき、なるべくそれに沿うよう支援している。お金を自分で管理したい方には、ご家族と相談しながら、出来る限り希望に沿うよう対応した。本人の気持ちを大切に、意向も聞いたり察したりしながら希望をかなえてあげたいと思っている。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にこれまでの生活歴やご趣味などを出来る限り、本人とご家族に聞き取りしている。また職員全員が把握できるように、それに合わせた記入用紙を用意し、閲覧できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人の一日の様子を把握する為にケース記録簿を使い時系列順に様子を記録している。その日お手伝いして下さったことや、排泄回数、睡眠時間などの暮らしぶりを出来る限り詳細に記録し、状態把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族が来所されたときには出来る限り普段の様子を伝え、必要な介護はなにか、家族の手を借りることで利用者の心身が良好な方向に向かう可能性があるか等、家族を介護される側ではなく利用者を共に支える気持ちを持っていただけるよう話し合いを持つように努めている。医療面においては施設と家族、医師の連絡を特に密に取っている。	ご家族が来所されたときには出来る限り普段の様子を伝え、必要な介護はなにか、家族の手を借りることで利用者の心身が良好な方向に向かう可能性があるか等、家族を介護される側ではなく利用者を共に支える気持ちを持っていただけるよう話し合いを持つように努めている。医療面においては施設と家族、医師の連絡を特に密に取っている。介護計画については、アセスメントに沿ったモニタリングにより、課題を抽出し次の介護計画につなげるサイクルを着実に実施している。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	全体記録とは別に時系列順の個別記録をつけており、毎日の様子、排泄、服薬など細かく記録している。月次会議の際にはそれを基にカンファレンスを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在医療連携加算はとっておらず、今後併せてターミナルケアも検討していくが、現状においても緩やかに終息期に向かっているご利用者については、当ホームで出来ることなどを説明しご同意いただいた上で個別に終末期の対応について家族、医師と協議している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元のボランティアセンターに依頼し、地域のボランティアさんを紹介していただいている。ホームを訪問して下さったり、発表会などに参加させていただいたり利用者の楽しみの一つになっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医は地元の医師にお願いしているが、本人やご家族の希望で他の医師による往診も可能である。実際に現在3医院から内科往診にきて下さっている。	往診医は地元の医師にお願いしているが、本人やご家族の希望で他の医師による往診も可能である。実際に現在3医院から内科往診にきて下さっている。3つの医院は地元の方であり、従来と変わらぬ診療の継続と併せて地元の薬を利用者に持ち込んで頂くことでも有効で感謝している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医師の往診時にも看護職員からの気づきや日常の暮らしぶりを連絡相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師からの病状説明がある時には、家族に同意を得た上で同席させていただき、現在の状況を把握するよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人の命はご本人だけのものと考えており、医療によって少しでも命がながられるのならそちらをお勧めすることも介護士としての勤めだと考えている。重度化しても医療によって何らかの回復が見られる可能性があるならばそれに賭けてみたいということをご家族と話し合っている。だが疾患によるものでなく、緩やかに終末期へ向かっている方のご家族にはホームでできること、できないことを説明した上で、できる限りホームで暮らしていける道を共に探すよう努めている。	ご本人の命はご本人だけのものと考えており、医療によって少しでも命がながられるのならそちらをお勧めすることも介護士としての勤めだと考えている。重度化しても医療によって何らかの回復が見られる可能性があるならばそれに賭けてみたいということをご家族と話し合っている。だが疾患によるものでなく、緩やかに終末期へ向かっている方のご家族にはホームでできること、できないことを説明した上で、できる限りホームで暮らしていける道を共に探すよう努めている。医療連携体制はとっていないが、3つの主治医の協力により、連携体制をとっているホームと同等以上の支援が行われている。重度化に対する指針を作り、同色を頂いている。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署主催の救急救命講習に正社員、パート職員問わず参加させている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を行っている。福祉施設という特性を近隣の消防署に理解していただくことも重要と考えており、現在の利用者状況なども話し合っている。また今年度スプリンクラー設備の設置を予定しており、設置後には新たな消防計画を作成し、それを基に新たな訓練をしていく予定である。	定期的に防災訓練を行っている。福祉施設という特性を近隣の消防署に理解していただくことも重要と考えており、現在の利用者状況なども話し合っている。また今年度スプリンクラー設備の設置を予定しており、設置後には新たな消防計画を作成し、それを基に新たな訓練をしていく予定である。次回の防災訓練には町内会長も参加してくれることになっており、地域との防災に関する協力体制も整っている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者は人生の先輩であるのだからこちらが学ばせていただく姿勢で接するよう全職員に指導している。	利用者は人生の先輩であるのだからこちらが学ばせていただく姿勢で接するよう全職員に指導している。個人を大切にしながら接することを意識付けしている。カンファレンスでは折にふれて人格の尊重、プライバシーの確保の話をして確認に努めている。	今後の継続	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自発的な意思表示が難しい方には、聞き取る努力をするよう職員に指導している。散歩の際も安全面には配慮しながら、どっちの道を通りたいかなど利用者の意志を出来るだけ表出してもらえよう働きかけている。	/		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・就寝時間はある程度決まっているが、朝ゆっくり起きたい方や、夜間にテレビを見たい方などもいらっしゃる為、一人一人のペースに合わせるよう努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性は理容師、女性は美容師の訪問によって整髪していただいている。希望があればなじみの理美容室での整髪も可能である。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その人その人のできることを考えながらお手伝いしていただき、職員と共に調理、配膳していただくよう働きかけている。	その人その人のできることを考えながらお手伝いしていただき、職員と共に調理、配膳していただくよう働きかけている。食材については、同系列でリフレが集中買付、集中配達、メニュー作成を行っているが、このホームについては食材は市内のレストランから食材を配達してもらい、リフレのメニューを参考に作るようにしている。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バイタルチェック表に一日の水分摂取量を記入するようにしている。居室で過ごす時間が長い方には声かけし定期的に水分補給してもらうようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	シフトで決まった職員が食後の口腔ケアのお手伝いをしている。歯槽膿漏の方などは本人によるケアが終わった後に歯科医指導に基づき職員により仕上げの口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄を画一的に見ることなく、その人に合った排泄パターンを見極めることに努め支援している。特に便秘対策はそれぞれに合わせたタイミングで対応をしている。	排泄を画一的に見ることなく、その人に合った排泄パターンを見極めることに努め支援している。特に便秘対策はそれぞれに合わせたタイミングで対応をしている。排泄は大切な生命活動であるので、便秘等についても薬材にたよらない自然な形を目指しており、特織質の男強の使用と併せて排泄シグナルを見逃さず受け止めケアに生かしている。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ食事で予防できるようバナナや芋類などの食物繊維を多く含む食材をメニューに取り入れている。加えて医師の指導により、便秘対策を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	希望のある方には毎日入浴できるよう支援している。大まかな入浴時間はあるが、一人一人が入浴を楽しめるよう、見守りながらゆっくりと入浴していただくよう支援している。	希望のある方には毎日入浴できるよう支援している。大まかな入浴時間はあるが、一人一人が入浴を楽しめるよう、見守りながらゆっくりと入浴していただくよう支援している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人に合わせた起床・就寝の支援をしている。日常的に朝食が延食になる方がいらっしゃるが、ご本人に合わせた食事時間に出来るよう無理のない時間に起床していただくようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現在誰がどんな薬を飲んでいるのかを把握する為、一覧ファイルを作っている。また薬剤師による施設内研修を行い、職員一人一人の薬剤に対する理解力が深まるよう働きかけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や調理などそれぞれが出来ることをお手伝いしていただいている。ただ利用者という立場でなく、参加する楽しさや、役に立てる充実感を感じていただけるような支援をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	天気の良い日には必ず近所を散歩するようにしている。外出行事の際は介護タクシーに協力依頼し、できるだけ沢山の利用者が外出できるようにしている。	天気の良い日には必ず近所を散歩するようにしている。外出行事の際は介護タクシーに協力依頼し、できるだけ沢山の利用者が外出できるようにしている。外出行事では、全員外出を目標に置き、出たがらない人も外出出来ることを支援している。嫌がるのを無理にではなく、根気よくお誘いし、気の乗った時、新しく購入したバンに乗せて遠出するように努めている。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人のお小遣いをお預かりしており、外出時に希望があればお買い物していただくようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	深夜早朝以外は自由に電話をかけてもらっている。信書も自由にやりとりしていただいている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有フロアにレクでの制作物や書道物などを掲示している。これらは毎月新しいものを掲示しており、季節に応じた内容にしている。	共有フロアに共通の話題となるレクでの制作物や書道物などを掲示している。これらは毎月新しいものを掲示しており、季節に応じた内容にしている。くつろげるように大きいソファを設置したところ好評である。又、写真は利用者も見るので外出やイベントで写真を撮ったら張出すようにしている。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有フロアには3～4人がけのソファが設置されており気の合う仲間で過ごせる空間になっている。一人がけのソファもあり、そちらが好きな方もおり、自由に過ごしていただいている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家具を持ち込んでいただいている。殺風景な部屋にならないようにレクでの作成物や行事の写真なども飾るようにしている。	入居時に使い慣れた家具を持ち込んでいただいている。殺風景な部屋にならないようにレクでの作成物や行事の写真なども飾るようにしている。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	少しでも利用者の自立を促していけるよう、各居室やトイレに案内表示を付けている。居室の案内は手作りのボードに皆さんの名前を書き、よりご自分のお部屋と感じていただけるよう工夫している。		

事業所名	やすらぎの杜
ユニット名	2階すみれ

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらいの
	3. 利用者の1/3くらいの
	4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまにある
	4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	3. 家族の1/3くらいと
	4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまに
	4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	2, 少しずつ増えている
	3. あまり増えていない
	4. 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	2, 職員の2/3くらいが
	3. 職員の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	2, 家族等の2/3くらいが
	3. 家族等の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地元出身の有志が立ち上げたホームであり、地域への貢献を第一の目標としている。別に介護理念も作成し、施設内の目に留まりやすい場所に掲示してるため、職員にも理念は浸透している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の学童保育施設や民謡の会、老人会との相互交流が持てている。一般的に福祉施設は閉鎖的に思われがちであるが、幸い地元出身の職員が多く、地域交流しやすい環境ができています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中の福祉施設という役割を果たしたく、老人会の集まりで最近の福祉を取り巻く状況などについて講演させていただくことがある。特に福祉施設は内部が見えにくく、中で何が行われているのかわかりにくいという方が多い為、施設見学を呼びかけている。認知症の方々も援助があれば普通に生活できると言うことを理解していただき、認知症や「老い」に対する恐怖を無くして行けたらと思っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者・利用者家族・外部有識者と話し合うことはホームを成長させてくれる大きな要素であり、介護の質的向上を目指すには欠かせないという姿勢で運営推進会議に臨んでいる。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	横須賀市グループホーム連絡協議会の役員を務めた経緯から、市職員と話す機会が増えた。必要に応じて役所で顔を合わせながら相談するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	どういった行為が身体拘束にあたるのか、身体拘束を行うことによってどんな弊害が出るのかを職員に指導し、身体拘束のない介護を徹底している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	人生の大先輩であるご利用者様に対して尊敬の念を持つことは当然で、虐待という気持ちがみじんも起きてはならないということを職員に徹底している。共に支え生きる関係ができていれば虐待など起こるはずはなく、そういった姿勢を職員全てが持てるよう、肉体的精神的にフォローしていくことが事業所のつとめであると考えている。また講習などで得た知識も職員それぞれに浸透するよう働きかけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前成年後見人を立てていらしたご利用者様がおり、色々と相互協力することができた。その際に制度について後見人の方から詳しく説明していただき知識として身につけることができた。必要性のある方にはお勧めしていこうと思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の条項が多い為、必ず数条毎に質問、確認の時間を取るようにしている。その後最後に全体を通した質問を受け、疑問点が残ることのないよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	設立4年のまだまだ発展途上の施設である為、家族会や運営推進会議で出た適切な意見についてはどんどん取り入れるようにしている。特に外部評価アンケートの結果は利用者家族の生の声だと考えており、施設をよくする為の貴重な意見として捉えている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	設立してまだ4年ほどの若いホームなので常に改善してゆくという気持ちで施設運営している。職員の意見は月次ミーティングだけでなく、個人面談などでも聞き取りするようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	画一的な評価をせず、個々人の普段の努力を各人毎に評価していけるよう努めている。出勤日数の多い職員、夜勤の出来る職員など、それぞれの状況に応じパート職員にも賞与査定を行い、出来るだけモチベーションを高めてもらえるよう働きかけている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一年に一度職員に自己評価表を提出してもらっている。できていることできていないことを自分で再確認してもらい、それを元に個人面談を行いフォローするようにしている。また各研修にも積極的に参加してもらおう働きかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	横須賀市のグループホーム協議会を通じて他事業所との交流が出来ている。また一般職員も他の事業所との交流研修などに参加することで、他のグループホームの様子を知ることが出来ている。他のホームの良さを吸収してそれを利用者にも活用していけるよう指導している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に必ず本人面談を行い不安に感じていることなどをヒアリングしている。できるだけ本人が納得して利用できるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	一度の面談で済ますことなく、複数回面談しながら家族の悩み事や要望を出来るだけ汲み取っていきけるようなヒアリングを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームと御本人のマッチングということを非常に重要視している。グループホームに入ることが本当に御本人の為になるのか、在宅や特養などのサービスと比較した上で、ご家族とも話し合い、入居を検討していただくように働きかけている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お手伝いのできる方には積極的に声をかけ、炊事、掃除などを職員と共に行っていただくようにしている。職員と利用者が共に作るホームでありたいと思っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	離れて暮らしているからこそ家族の絆を強く持っていただきたく、外食や外出を無理のない程度にさせていただくことを勧めている。通院の際にも通院だけでなく食事やお茶などの時間を持っていただくよう働きかけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	町内会の方やご近所に住まわれていた方々も訪問して下さっている。また以前ご利用者が所属していた民謡サークルの催し物に参加させていただいたり良好な関係を保てるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い方同士が隣り合うような席順になるよう配慮し、共有フロアに来ることが楽しくなるよう働きかけている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	主に施設長により退居された方々のお見舞いを行っている。今年度からは職員も同行の上でお見舞いをしようと取り組んでいる。退居後にご家族様が新しい入居希望者をご紹介下さったり、退居後も信頼関係を保っている。		
Ⅲ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入浴が好きな方には毎日入浴介助したり、それぞれのニーズに合わせた介護が出来るよう努めている。また入居時に今までの暮らしの状況を家族から教えていただいております、なるべくそれに沿うよう支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にそれまでの生活歴やご趣味などを出来る限り、本人とご家族に聞き取りしている。また職員全員が把握できるように、それに合わせた記入用紙を用意し、閲覧できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人の一日の様子を把握する為にケース記録簿を使い時系列順に様子を記録している。その日お手伝いして下さったことや、排泄回数、睡眠時間などの暮らしぶりを出来る限り詳細に記録し、状態把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族が来所されたときには出来る限り普段の様子を伝え、必要な介護はなにか、家族の手を借りることで利用者の心身が良好な方向に向かう可能性があるか等、家族を介護される側ではなく利用者と共に支える気持ちを持っていただけるよう話し合いを持つように努めている。医療面においては施設と家族、医師の連絡を特に密に取っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	全体記録とは別に時系列順の個別記録をつけており、毎日の様子、排泄、服薬など細かく記録している。月次会議の際にはそれを基にカンファレンスを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在医療連携加算はとっておらず、今後併せてターミナルケアも検討していくが、現状においても緩やかに終末期に向かっているご利用者については、当ホームで出来ることなどを説明しご同意いただいた上で個別に終末期の対応について家族、医師と協議している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元のボランティアセンターに依頼し、地域のボランティアさんを紹介していただいている。ホームを訪問して下さったり、発表会などに参加させていただいたり利用者の楽しみの一つになっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医は地元の医師にお願いしているが、本人やご家族の希望で他の医師による往診も可能である。実際に現在3医院から内科往診にきて下さっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医師の往診時にも看護職員からの気づきや日常の暮らしぶりを連絡相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師からの病状説明がある時には、家族に同意を得た上で同席させていただき、現在の状況を把握するよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人の命はご本人だけのものであると考えており、医療によって少しでも命がながられるのならそちらをお勧めすることも介護士としての勤めだと考えている。重度化しても医療によって何らかの回復が見られる可能性があるならばそれに賭けてみたいということをご家族と話し合っている。だが疾患によるものでなく、緩やかに終末期へ向かっている方のご家族にはホームでできること、できないことを説明した上で、できる限りホームで暮らしていける道を共に探すよう努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署主催の救急救命講習に正社員、パート職員問わず参加させている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を行っている。福祉施設という特性を近隣の消防署に理解していただくことも重要と考えており、現在の利用者状況なども話し合っている。また今年度スプリンクラー設備の設置を予定しており、設置後には新たな消防計画を作成し、それを基に新たな訓練をしていく予定である。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者は人生の先輩であるのだからこちらが学ばせていただく姿勢で接するよう全職員に指導している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自発的な意思表示が難しい方には、聞き取る努力をするよう職員に指導している。散歩の際も安全面には配慮しながら、どっちの道を通りたいかなど利用者の意志を出来るだけ表出してもらえよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・就寝時間はある程度決まっているが、朝ゆっくり起きたい方や、夜間にテレビを見たい方などもいらっしゃる為、一人一人のペースに合わせるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性は理容師、女性は美容師の訪問によって整髪していただいている。希望があればなじみの理美容室での整髪も可能である。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その人その人のできることを考えながらお手伝いしていただき、職員と共に調理、配膳していただくよう働きかけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バイタルチェック表に一日の水分摂取量を記入するようにしている。居室で過ごす時間が長い方には声かけし定期的に水分補給してもらうようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	シフトで決まった職員が食後の口腔ケアのお手伝いをしている。歯槽膿漏の方などは本人によるケアが終わった後に歯科医指導に基づき職員により仕上げの口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄を画一的に見ることなく、その人に合った排泄パターンを見極めることに努め支援している。特に便秘対策はそれぞれに合わせたタイミングで対応をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ食事で予防できるようバナナや芋類などの食物繊維を多く含む食材をメニューに取り入れている。加えて医師の指導により、便秘対策を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	希望のある方には毎日入浴できるよう支援している。大まかな入浴時間はあるが、一人一人が入浴を楽しめるよう、見守りながらゆっくりと入浴していただくよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人に合わせた起床・就寝の支援をしている。日常的に朝食が延食になる方がいらっしゃるが、ご本人に合わせた食事時間に出来るよう無理のない時間に起床していただくようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現在誰がどんな薬を飲んでいるのかを把握する為、一覧ファイルを作っている。また薬剤師による施設内研修を行い、職員一人一人の薬剤に対する理解力が深まるよう働きかけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や調理などそれぞれが出来ることをお手伝いしていただいている。ただ利用者という立場でなく、参加する楽しさや、役に立てる充実感を感じていただけるような支援をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には必ず近所を散歩するようにしている。外出行事の際は介護タクシーに協力依頼し、できるだけ沢山の利用者が外出できるようにしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人のお小遣いをお預かりしており、外出時に希望があればお買い物していただくようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	深夜早朝以外は自由に電話をかけてもらっている。信書も自由にやりとりしていただいている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有フロアにレクでの制作物や書道物などを掲示している。これらは毎月新しいものを掲示しており、季節に応じた内容にしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有フロアには3～4人がけのソファが設置されており気の合う仲間で過ごせる空間になっている。一人がけのソファもあり、そちらが好きな方もおり、自由に過ごしていただいている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家具を持ち込んでいただいている。殺風景な部屋にならないようにレクでの作成物や行事の写真なども飾るようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	少しでも利用者の自立を促していけるよう、各居室やトイレに案内表示を付けている。居室の案内は手作りのボードに皆さんの名前を書き、よりご自分のお部屋と感じていただけるよう工夫している。		

目 標 達 成 計 画

事業所 やすらぎの杜2階すみれ

作成日 21年 11月 1日

〔目標達成計画〕

優 先 順 位	項 目 番 号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取組み内 容	目標達成に 要する期間
1	44	排便コントロールには十分注意しているが、ADLの低下が著しい特定利用者の自然排便困難である。(2階)	全利用者の個人的リズムに合わせたスムーズな排便を促す。	今以上に職員の便秘に対する理解を深めていくと同時に、利用者が発するサインを見逃さず定期的にトイレ誘導していく。	1年
2	37, 18	現在も日常的な外出とは別に利用者の希望に応じ、行きたいところへ出かけているが、家族の参加が得られない。	少人数単位での外出により、利用者、職員、家族の絆を深めたい。	外出行事の際に家族へ事前通達をしていく。	1年
3	2	現在も積極的にボランティアの受入を行っているが、より多方面からの参加を願いたい。	利用者の趣味に合わせたボランティア招致	地域ボランティアセンターへの働きかけ強化	1年
4	3	介護保険や認知症に対する地域高齢者の理解度がまだまだ十分でない。	地域高齢者が気軽に相談できるホーム作り。認知症への誤解の解消。	地域老人会への働きかけ。老人会の中で介護保険の勉強会などを行えたらと思っている。	1年
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。